

海軍使館教科書草案

昭和八年九月第百改正通欄

海軍使館教科書草案

1940

第十二號

續頒發防備隊軍艦研究委員編纂

海軍使鳩教科書草案目次

緒言

第一章

沿革

第一節

軍鳩通信、始期並發達、經路

第二節

我陸海軍ニ於ケル軍鳩

第二回研究

第三回研究

第二章

軍鳩通信、能力概要

第一節

軍鳩通信、長所特質

第二節

軍鳩通信、能力

第三章

軍鳩、形態

第一節

外貌

第二節

各部、名稱

第三節

羽色

第四節

翼羽及尾羽

第五節

鳩記號

第六節

優秀鳩、外觀容姿

第七節

鳩体、構造及官能

一 二 三 四 五 八 八 九 〇 〇 一 二 三

第四章

第一節

軍鳩能力

鳩歸巢性

第二節

鳩飛翔速度及實用距離

一晝間鳩舍(陸上固定鳩舍、船上鳩舍、移動鳩舍)

往復通信鳩舍

二夜間鳩舍

第五章

管理飼育

第一節

鳩舍(車)の種類及性能

一陸上固定鳩舍

二夜間鳩舍

三移動鳩舍(車)

四移動鳩舍(車)

五往復通信鳩舍

第二節

飼糧

一消化器系

二呼吸器系

三眼

四換羽

三

四

四

五

七

七

九

九

〇

二

二

二

二

二

二

二

二

二

五

第六章

第一節

訓練

馴致

軍鳩通信用紙、鳩舎諸用紙、放鳩成績用紙

三 諸用紙

二 作業服

鳩巢、鳩足輪、信書筒、信書裏、小印

口 消耗品部

水碓、篩箕、振旗、消毒器、糞搔、糞取、土塩箱

鳩水浴槽、鳩足輪固着器、足輪記號器、捕鳩網

巢箱、トラップ、電鈴、呼笛、鳩籠、飲水器、給餌器

小 備品部

一 器材

器材、作業服及諸用紙

五 飼糧、精選

四 飼糧、日量

三 飼糧、配合

二 我海軍、常用飼糧

一 飼糧、種類及選擇

三

三

三

三

三

三

三

三

六

六

六

五

五

第三節

第四節

第五節

第六節

出令

舍外飛翔

放鳩訓練

一基礎訓練

二延伸訓練

三保能訓練

四放鳩法

五放鳩躍進度

六各個放鳩ト集團放鳩ト利点ト欠点

陸上固定鳩舎訓練

夜間鳩舎訓練

一、夜間活動意志誘起

二、夜間ニ於テル方向判定勵發

設備

一鳩舎位置

二鳩舎(第一、二、三、四参照)

夜間鳩舎略図(一、羽収容)

第一期 基礎訓練

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

第七章

使用法

第七節

第八節
第九節

第一節
第二節

一 開始時機

二 移殖鳩

三 馴致

四 出舍

五 舍外飛翔

六 放鳩訓練

第二期 夜間放鳩訓練

第三期 蕃殖並保能訓練

艦上鳩舎訓練

一 泊地に於て訓練

二 航行中訓練

移動鳩舎(車)訓練

往復通信鳩舎訓練

(附)昭和年度横須賀防備隊往復鳩訓練計畫

總則

放鳩ニ就テ

信書ニ就テ

五五 五六 五七 五七 五八 六三 七〇 七〇 七〇 七二 七二 七七 八〇 八〇 八一

第八章

蕃殖

第三節

放鳩ノ氣象

第四節

鳩携行ニ就テ

第五節

管理中ノ注意

第六節

鳩持方(其他ニ関スル因)

第一節

親鳩ノ選擇

第二節

交配

一雌雄分離並ニ交配時機

二交配上注意スヘキ事項

産卵・孵化・育雛

巢立

第三節

第四節

第九章

衛生

總則

第一節

疾病並療法

一傳染病

二呼吸器病

三消化器病

四神經病

八二

八三

八四

八五

八六

八六

八六

八六

八九

九一

九三

九四

九四

九六

九六

九八

九九

一〇〇

海軍使鳩用語

一、通信方法
二、通信力
三、通信用具
四、調教
五、訓練
六、術語
七、鳩体

第十章

第二節

即
軍鳩員
服務心得
總則
害蟲及其驅除法

五眼病
六產卵異常
七運動器病
八外傷

第一節

掌鳩者，精神的修練

第二節

日常，鳩舍勤務

第三節

記錄整理

一六二
 一五二
 一四二
 一三二
 一二二
 一一二
 一〇九
 一〇九
 一〇八
 一〇七
 一〇六
 一〇五
 一〇五
 一〇三
 一〇三
 一〇二
 一〇〇

6940

八羽色
九眼色
十識別特徴
十一鳩舎
十二鳩室
十三鳩舎要具
十四鳩籠
十五軍鳩員
十六雑

二九
一〇
一〇
一一
一二
一三
一四
一五

緒言

本書ハ主トシテ部内ニ於ケル軍鳩員タル下士官兵ニ閱讀セシムル爲
昭和二年ノ秋編纂セシタルモノニシテ基礎的觀念ト必須知識ヲ修
得セシムルコトヲ主眼トシ努メテ平易簡略ニ説述セリ
爾後滿六ヶ年ヲ經過シ茲ニ第二回増補訂正ヲ行ヒタルモ更ニ一層
本書ノ内容ヲ整備セシムルニ今後尚ホ相當ノ訂正ヲ要スル點アル
ヘシト信ス

第一章 沿革

第一節 軍鳩通信の初期並發達の経路

有史以前ヨリ人類ニ依リ馴致セラレタル鳩ハ最初小亜細亞地方ニ於テ隆昌ニ極メ次デエデプト、羅馬等ニ傳ヘリ羅馬ニアリテハ西歴紀元前四四年(崇神天皇御代)「モデーヌ」ノ守城ニ鳩ヲ利用シ空中通信ヨリ攻圍線ヲ突破シテ外部ト連絡ヲ保持セリト云フ歴史ヲ有スニ依リテモ已ニ此頃ヨリ鳩ヲ軍用通信ニ使用セラレタル事ヲ想像シ得ベシ

爾來世ノ進化ニ伴ヒ鳩通信モ次第ニ發達シ十一世紀以來ハ常ニ戰場ノ通信機關トシテ最も重要ナル殊ニ和蘭、白耳義地方ニ於テハ他國ニ先ジテ傳書鳩ノ研究ニ力ヲ注キ種々相異ル鳩ヲ交配シテ只管新種ヲ作出ニ努メ現今ニ使鳩ノ基礎的種族ヲ創成成功シタルモノハ實ニ白耳義人ナリ其後數世紀ニ亘リテ各地方ニ於テ熾ニ競翔流行シタルタメ好鳩家ヲシテ益々鳩ニ興味ト利益トヲ感ゼシノ相爭ヒデ一層優秀ナル新種ヲ作成ニ努力セシムニ至リ當時優秀鳩ガ如何ニ好鳩家間ニ珍重セラレ且ツ高價ニ取引セラレタルカハ全ク想像以上ナリシト云フ斯ノ如ク白耳義地方ニ發達セル鳩ハ先ツ隣接セル佛國ニ翼ヲ延シ漸シテ歐洲各國ニ傳播シ更ニ數百年間周知ナル造詣ト卓越セル技術トヲ以テ交配淘汰ヲ繼續セラレタル結果遂ニ今日如キ一種獨特ノ優秀ナル傳書鳩ヲ出現セシムニ至レルナリ

白耳義人ニ次デ此種ノ改良ニ最モ力ヲ盡シタルモハ佛國人ニテ同國ノ千八百五十年
 巴里ノ籠城ニ於テ獨軍ヲ重圍ヲ突破シテ外部ト連絡ヲ保持シ得タル當時ノ偉
 大ナル鳩通信ノ功績ニ刺戟セラレ鳩ヲ愛好シ飼育スルコトハ愛國的行爲ナリト稱
 セラルニ至リ該戰役後ハ盛ニ之ガ飼育ヲ獎勵シ各種研究ヲ繼續シテ
 遂ニ歐洲大戦ニ及ビ同國軍鳩ガ到ル處ニ戰場ニ於テ偉勳ヲ奏セシコトハ世人
 ノ記憶ニ尚新ナル處ナリ現今我軍隊ニ飼育セラル軍鳩ノ大部ハ佛國種
 ノ又ハ白耳義種ニ屬スルモノニシテ佛國鳩ノ名聲ハ白耳義鳩ト併立シテ世界ノ
 霸權ヲ掌握スルニ至レリ

第二節

我陸海軍ニ於ケル軍鳩

第一回研究

我海軍ニ於ケル軍鳩研究ハ明治七年二月横須賀鎮守府ニ於テ米國產鳩若干羽ヲ
 購入シテ飼育シタルニ始リ其後英、白種等ノ優良鳩ヲ輸入シテ横須賀、舞鶴
 ノ各鎮守府及竹敷要港部、海軍望樓等ニ於テ飼育訓練ヲ試ミタルモ當時
 飼育法ニ通曉セス折柄傳染病蔓延ニ大打撃ヲ受ケ加フルニ無線電信ノ出
 現ハ鳩ノ聲望ヲ一層低下セシメ明治八年遂ニ之ガ研究ヲ中止セリ
 陸軍ニ於テハ明治十年頃ヨリ屢々種々小數ノ鳩ヲ飼育研究シタルモ其効
 果ヲ極ムルニ至ラス

越テ明治三十二年支那ヨリ三百羽、三十四年白耳義ヨリ三百羽、三十五年獨逸

ヨリ平羽ヲ購入シ同年東京市外中野町電信教導大隊建設ト同時ニ同
隊ヲ中心ニ之等ノ鳩ニ就キ比較研究セルモ遂ニ成果ヲ收ムル能ハスシテ中止
セシカハ明治末年ニ至リ軍部ニ於ケル鳩ノ研究ヲ根絶スルニ至レリ

第三回研究

歐洲大戰ニ於テ軍鳩ノ偉大ノ効績ヲ發揚シタルニ鑑ミ陸軍ニ於テハ佛國ヨリ
軍鳩ニ平羽鳩車四輛其他鳩舎附屬器材ヲ購入シ同時ニ鳩術教官佛國砲
兵中尉「クレルカン」氏外ニ名ノ下ヲ招致シ軍務局長ヲ委員長トスル軍用鳩調査
委員會ヲ編成シ其事務所ヲ東京府下中野町ニ置キ第一回軍鳩研究ヲ放棄
シテヨリ凡十年ノ後即チ大正八年ノ春之ガ研究ヲ再興シ現今ハ師團大部及要塞
諸學校等ニ鳩通信班ヲ設ケ其基礎機關タル軍用鳩調査委員事務所ニテハ
常ニ数千羽ノ鳩ヲ飼育シ仔鳩ヲ全國各部隊ニ配給シ且ツ年々数十名ノ特技下
士ヲ全所ニ招集シ鳩術教育ヲ施行シ整然トシテ鳩通信術ノ普及ト其向上
ヲ計リツアリ

海軍ニ於テハ大正七年ノ夏横須賀海軍航空隊ニ於テ非公式ニ軍鳩研究
再燃セラレシモ經費ノ出所ニ窮シテ之ヲ發達セシムルニ由ナカリキ越テ大正八年
夏武知大尉以下士官兵五名陸軍ヨリ鳩調査委員會ニ派遣セラレ「クレルカン」
氏以下佛人教師ヨリ飼育訓練ノ講習ヲ受ケ大正九年三月横須賀航空隊ニ
於テ鳩舎一棟竣工ト共ニ陸軍ヨリ鳩百羽ノ分譲ヲ受ケ武知大尉專任カリ專

ラ海上方面ニ於ケル使鳩術其他ニ就キ研究ヲ開始シ茲ニ我海軍々鳩ノ基礎ヲ確
立セリ爾來星移リ人代リテ海陸両方面ニ於ケル諸種ノ實驗研究ヲ繼續シ現今ニ
於テハ訓令ニ依リキトシテ各防備隊ニ軍鳩ヲ飼育シ得ルコトナリ且ツ之ガ基礎
機關ヲ横須賀防備隊ニ置カレ將ニ常備機關トシテ名實共實用ノ時代ニ入ラ
ントシツナリ殊ニ輓近我海軍ニ於ケル夜間鳩ニ関スル研究ハ長足ノ進歩ヲ遂
ケ暗夜ニ於テモ尚良ク通信シ得ルノミナラス同一鳩ヲ以テ晝夜連續ノ通信ヲ
ナシ得ル事モ證明セラレ軍鳩ノ前途ニ大光明ヲ發見スルト共ニ輕便獨特ノ
通信機關トシテ漸時重要セラルニ至レリ

第二章 軍鳩通信ノ能力概要

現今我海軍ニ於テ使用セラル通信樣式通信器具等種々アレドモ皆其ノ一ニ
ヲ以テ各種ノ情况ニ於テ萬全ヲ期シ得ルモノナシ之即ケ各種通信法ノ存在
採用セラル理由ナリトス 軍鳩通信ハ其性能上分秒ヲ爭フ洋上ノ戰略戰術的
通信トシテ有利ナルモノアラサルハ勿論ナリト雖モ本通信法ハ又他種通信法
企及シ能ハサル長所特徴ヲ有シ以テ從來ノ通信法一欠陥ヲ充足シ得ルモ
ノナリ

第一節 軍鳩通信ノ長所、特質
(一) 科學的通信法ト杜絶シタル場合最後ノ通信手段トシテ唯一モノナリ又科

學的通信ノ副装置補助通信用トシテ極メテ輕便ナリ

(ロ) 精細ナル数字ノ表略圖寫真ノイルム長文信ヲ輸送スル能力アリ(鳩數ヲヨクスルコトニ依リ並ニ鳩通信用顯微鏡寫真ノ利用ニ依リコノ能力ヲ層増加セシムルコトヲ得)

右三項目ハ軍鳩通信獨特ノ長所ニシテ他ノ現有科學的通信機關ノ得テ追從スル能ハサル迄ナリ尚其他ノ利點ヲ列擧スル

(ハ) 隱密ニ發信スルコトヲ得

(ニ) 混信ノ害ヲ受ケナシ

(ホ) 通信時刻ノ制限ヲ受ケルコトナシ(夜間ハ夜間鳩使用)

(ヘ) 發信者ニ何等專門的技術ヲ要セス誰人ニモ使用シ得

(ト) 發信設備ヲ要セス

(チ) 信書通信ナルヲ以テ途中介在ヲ絶スルナク從テ信文ニ錯誤ヲ惹起スルコト

絶對ニナシ

(リ) 鳩ハ毒瓦斯ニ對スル抵抗力極メテ大ナリ

(ヌ) 總メテ用法設備器材要具等簡單明瞭ナルヲ以テ軍用トシテ適切ナリ

尚特種寫真機ヲ携行セシメテ上空ヨリ所望地ヲ撮影セシムルコトヲモ得ルモノナリ

第二節 軍鳩通信ノ能力(概説)

(イ) 我國ニ於テハ大正三年頃迄ハ晝間通信ノニ限セラレタルモ其後實驗研究ノ結果晝夜兩用ノ夜間鳩ノ出現ナリ今自ニ於テハ殆ド時刻ノ制限ヲ受クルコト無し

(ロ) 使用地域酷寒ノシベリヤニ於テモ酷熱ノ南洋ニ於テモ使用シ得(陸海軍實驗成績ニ依ル)

(ハ) 通信速力 能ク訓練ヲ受ケル優秀ノ鳩ヲテハ其水平速力ハ平均一分一秒

(ニ) 通信分量 (三ノ節) ニモ中等鳩ハ一般ニ一分時六百米乃至八百米ナリ

(ニ) 通信分量

一羽ノ鳩ノ通信量

信書携行法種別	收寄得通信簡紙枚数	文字数	記	事
信書筒	二	三三〇	我が海軍	制空通信
信書囊	一〇	一六五〇	用紙一葉ノ大サ一サニ平方ナリ	
鳩通信用寫真紙	最大限 四萬字	顯微鏡寫真ニ依ル		

一羽ノ鳩ノ通信量右如クナルヲ以テ鳩数ヲ算スルコトニ依リ相當長文ノ信書及多數ノ略圖縮圖等ヲモ輸送シ得ルモノトス

(ホ) 通信距離

日本ニ於ケル最大通信距離

鳩所屬別 放鳩地到着地直距離(米)

海軍 沿岸 塩金 追濱 三五八

陸軍 福山 中野 六〇〇

民間 盛岡 大坂 七五〇

右日本ニ於ケル最大記録ニテ之ヲ以テ直々ニ安全ナル實用距離トナスヲ得ス
安全ナル實用距離ニ関シテハ第四章ニ詳記ス

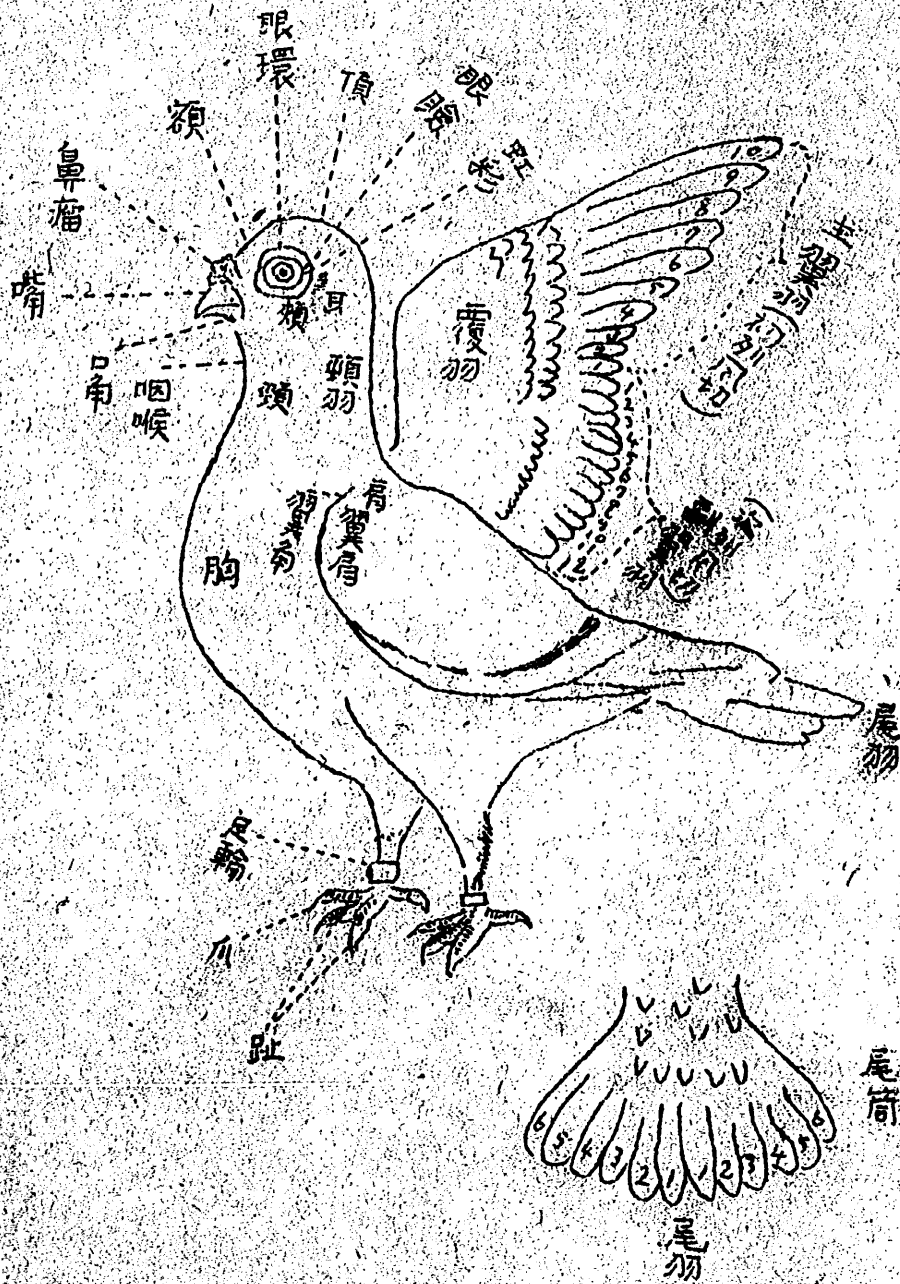
(ハ)通信精度 唯羽鳩ヲ使用スル場合、通信精度ハ天候距離其他ノ状
況ニ依リ零乃至百パーセントナルモ鳩通信ニ於テハ必ス同一信太ヲ以
テ鳩ニ托スル原則ニ無キ要ニ應ジ鳩数ヲ多クスルニ依リ必ス通信ノ目
的ヲ達シ得ル様ニ處理シ得ルモノナリ

第三章 軍鳩ノ形態

第一節 外貌

優雅ニシテ威嚴アリ之ヲ土鳩●日本在来鳩ヲ神社等ニ居ル鳩ニ比較スル所
ハ體格一般ニ優秀ナル外大凡左如キ特徴ヲ有ス
頭大ニシテ額廣ク鼻瘤特ニ大ナリ(但幼鳩ハ小シ)眼環大ナリ從ツテ眼太ク見ユ
胸部能ク發達シ頭太クシテ長ク脚強靱ニシテ能ク延ヒ其下方ニ記號ヲ

第二節 各部名稱
 鴉体外貌、名稱、圖三示セルカ如シ



第三節 羽色

灰黒、栗白班(灰黒栗色中ニ白班点ヲ有スルモノ)等種々アリテ各々濃淡アリ又灰色ニハ
 黒色、栗色ニ濃キ栗色ヲ以テ二條(或ハ三條)ノ畫線ヲ有スルモノアリ又灰ニ引栗ニ
 引トモ又胡麻ヲ帶ビルモノアリ其色彩ニ從ヒ灰胡麻、栗胡麻、黒胡麻、紅栗、灰栗
 等ト稱シ三色以テ羽色混雜セルモノヲ雜班ト稱ス羽色ハ能クニ深キ關係ナキヲ如シ
 (使鳩用語、部參照)

第四節 翼羽及尾羽

主翼羽

翼、外端ヨリ數ヘテ十枚ノ長短ナル羽ニシテ又之ヲ初列風切トモトヒ
 飛翔中ハ主シテ推進作用ヲ營ムモノナリ

副翼羽

主翼羽内方ニ排列スル稍短ナル羽ニシテ十二枚、次列風切ヲ主トシ
 テ主撐作用ヲ營ムモノナリ

覆羽

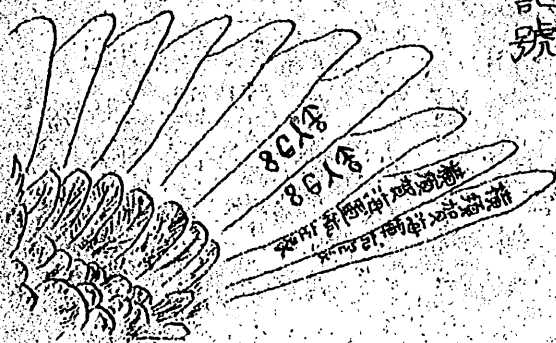
翼、脊腹面ヲ覆フ無數ノ小羽ニシテ飛翔中ハ主トシテ上下及旋回
 等、運動ニ與カルモノナリ

尾羽

十二枚ノ大羽ヨリ飛翔中ノ舵ヲナスモノナリ

第五節 鳩記號

軍鳩ハ其所屬ヲ示シ且取扱ニ便ナシタルメ各鳩ニ悉ク記號ヲ附ス而シテ
 其翼ニ捺印(紫色イシギヲ以テ)シタルモノヲ翼記號トモ脚ニ嵌メタル足輪ニ記(足



輪記號器ヲ用テ浮生シ記號ヲ畫スセルモノヲ足輪記號ト稱ス何レモ所屬鳩番號等ヲ記號モニシテ海軍鳩ハ印ヲ陸軍鳩ハ印ヲ民間鳩ハ定紋屋號姓名等ヲ附スルヲ以テ一見シテ其何レニ屬マルカヲ識別シ得ルモノナリ

足輪記號 左足ニ嵌入ス 所屬畧字生年。→鳩番號

例 海軍 302M135 横須賀海軍航空隊 昭和二年四月廿四日 20號

海軍 4020 鎮西防備隊 昭和四年四月廿四日 20號

左翼記號 左翼翼外方ニ枚(第一、第九)六所屬ヲ其次ニ枚(第八、第廿)ニハ鳩番號ヲ何レモ重複シテ羽翼羽表面ニ翼翼羽先端ヨリ根本ノ方ト文字ヲ連テ捺印ス

足輪記號



第六節 優秀鳩の外観容姿

外観依り優秀鳩ヲ鑑定スルコトハ相當難ク數キ事トドモ多ク優秀鳩具備スル外貌
特徴ニテモ之ヲ擧グバ左ノ如シ

總體

一見如何ニモ各部ヲ整正シテ釣合ノヨキコト

頭

稍球形シテ額廣ク後頭部能ク發達ス

眼

清澄ニシテ瞬ク動作敏活瞳ハ鮮麗ニシテ虹球腹中稍前ケニ偏位ス

翼羽

強ク胸部ニ附着シ脂肪ニ當ミ主翼羽ハ長廣ニシテ強靱ナル羽軸ヲ有シ

覆羽ハ豊富柔軟ニシテ相重ナリ間隙ナク所夢ノ面ヲ覆フ棲リ木ニ
アルトキ兩翼ヲ堅ク畳ミテ先端ヲ尾羽ノ上ニ支フ

胸部

廣クシテ前方ニ張り胸骨鞏固ニシテ左右ニ彎ク曲セズ

頸

羽毛厚ク何トナク力強ク見ユ

嘴

ハ等ハ堅クシテ單色ナリ

體

重過重ナラス過輕ナラス

普通

雄鳩

四百二十五瓦

五百二十五瓦(二三瓦一四瓦)

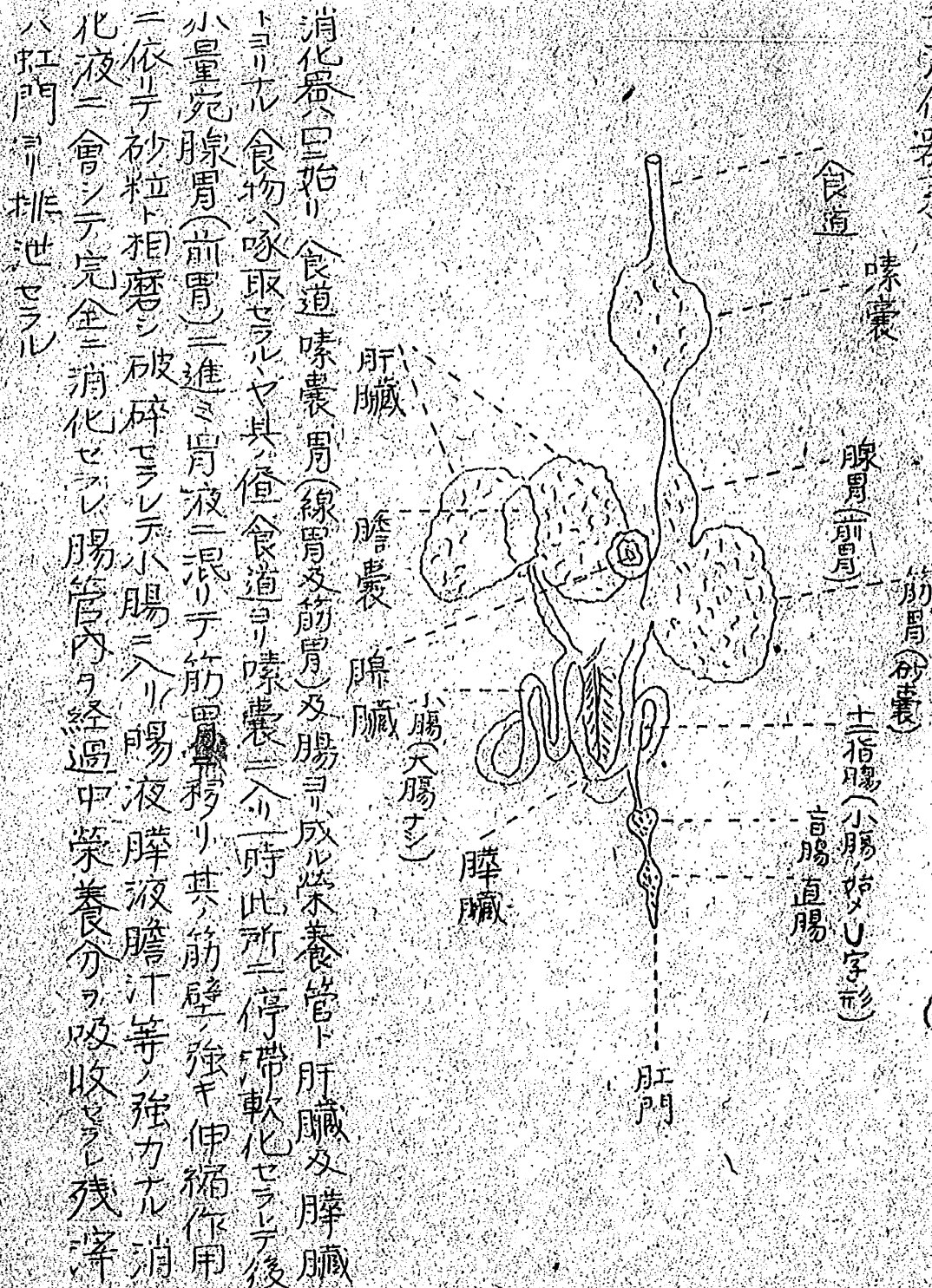
雌鳩

三百八十瓦

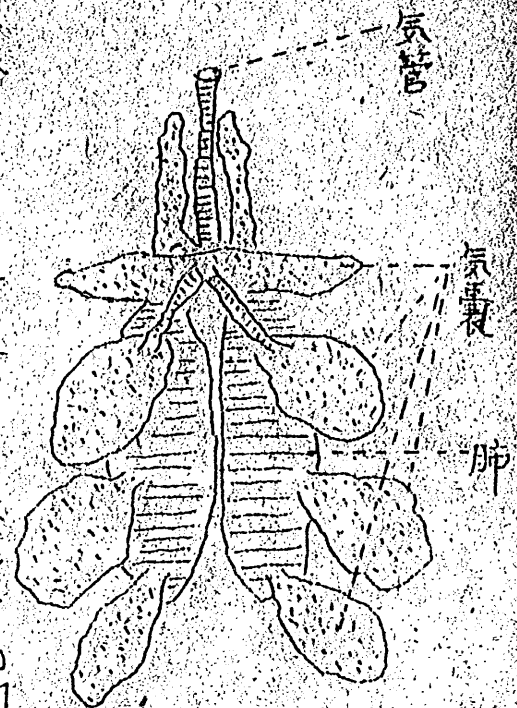
四百八十瓦(二二瓦一八瓦)

羽色

羽色ハ能力ノ優秀ニ關係ナキカ如シト雖モ同色ニ於テハ其淡キモ白リ濃
キモヲ可トス又白色鳩ハ愛玩用トシテ極メテ美麗ナルモ害鳥害獸等ニ發
見易ク從テ之等ノ襲撃ヲ蒙ル機會多ク以テ軍鳩トシテハ適當ナラス

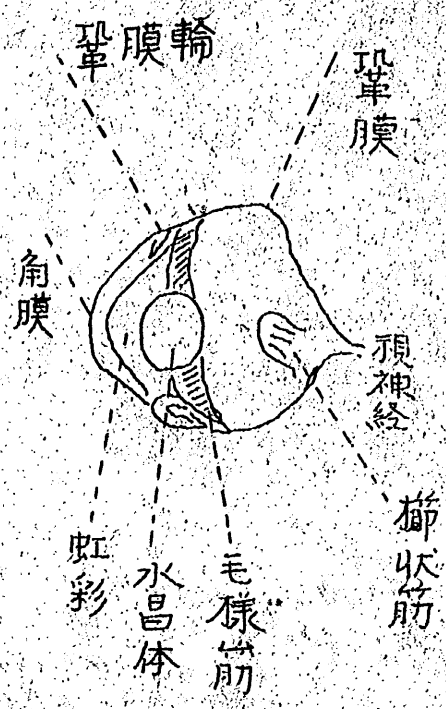


二呼吸器系



呼吸器、鼻孔、喉頭、気管、肺、及氣囊ヨリナル氣囊ハ九個(五對モ有)ヨリナル薄膜
透明ノ囊ニシテ、骨腔ト連絡シ空氣ヲ含ミテ鳩体ノ比重ヲ減ジ呼吸ヲ補助
シ飛翔ヲ便スル器ナリ

三眼



眼、鳩能カニ至大ノ關係ヲ有スル重要機關ニシテ其通視力ノ強大ナルコト他ノ動物ノ比ニ劣ラス此ノ重要ヲ機關ハ其ノ外部ヲ角膜質ノ眼瞼ヲ以テ圍ミ更ニ其ノ内方角膜ノ直前ニ透明ナル瞬膜ヲ有シ極メテ敏活ニ眼球ヲ拭淨シ涙液ト相俟ツテ角膜ノ透明部ヲ濕シ飛翔間眼球ヲ保護ス

眼球全体ノ構造ハ他ノ鳥類ト殆ント同様ニシテ視神經ノ通過スル部ニ接シテ嚢狀ノ組織ヲ有シ其伸縮ニヨリテ眼球形ヲ變シ水晶體ノ變形ト相俟ツテ通視ヲ敏活ニ調節ス即チ一瞬時ニシテ能ク寸先ノモノモ十數里遠方ノモノモ視別シ得ルモノナリ

四換羽

鳩ハ毎年一回規則的ニ羽モヲ更新スモノナリ之ヲ換羽ト云フ

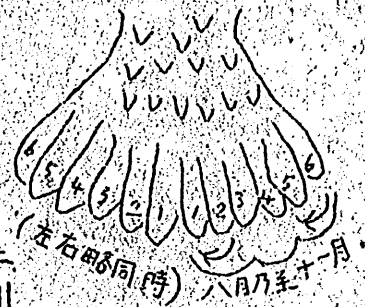
換羽ハ概ネ春ニ始リ秋末ニ完了スルヲ常トスモ種々原因ニ依リ遲滞スルコトアリ換羽ハ斯ク長期ニ亘リテ順次行ハルモノナレ共時期ヨリテ程度ヲ異ニシ初秋(九月前後)ニ於テ最も旺ニシテ且此時機ハ主翼羽ト共ニ尾羽及其他全身羽毛ノ脱換ヨリ一際目立テテ換羽ノ狀ヲ呈ス一般ニ此時機ヲ稱シテ換羽期ト云フ

換羽期ニ於テハ内部ニ於ケル生理的變化ノ爲鳩ハ常ノ如ク氣色勝レズ且ツ主要ナル翼羽(初列風切中ノ外翼)脱落ノ際ハ著シク飛翔力ニ影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ遠距離ノ使用ニ際シテハ特弱翼羽ノ點檢ヲ嚴密ニシ運動飼糧等ヲ規正シ常ニ鳩舎ヲ



換羽順序及時機

平靜を保て換羽期滑促進ヲ計ラサルヘカラズ



- 一 主羽異羽ハ四月下旬第羽脱落
初了約一月後同羽ヲ殆ト全長
ニ達シ時第二羽ニ及ヒ約三週
間毎第三羽ヲ第六羽ニ達シ以
右約四週毎ニ七八九十羽ニ及ブ
- 二 副羽異羽ハ年羽ト稱シ凡二年毎ニ脱落
三 覆羽ハ第五主羽脱落時ヨリ
約四月ニテ完了ス
- 四 尾羽ハ主羽異羽第七乃至第八羽ノ
脱落時ニ於テ第三尾羽脱落シ
凡其3/4ニ達シタル時第一第三
第六第五尾羽ノ順序ニ脱落ス
- 五 全身羽毛ハ第六主羽異羽ノ脱落
後嘴ノ基部ヨリ始マリ頭部
頸部ニ及ビ更ニ胸部ヨリ脱落ス
ルモノトス

夫

第四章 軍鳩の能力

第二節 鳩の歸巢性

傳書鳩ハ種々特種鳩ハ自體巢ニ對シ一種強烈ナル愛着心ヲ有シ直視及ハテ數百軒ノ遠距離ヨリ放タル時雖モ能ク記憶ヲ辿リ自ラ其ノ方向ヲ判定シテ歸還シ得ル特種ノ性能ヲ有スルモノナリ

乃チ此ノ性能ヲ吾人カ利用スルモノシテ之ガ勵發訓練巧拙ハ鳩ノ實用的能力ニ至大關係ヲ有スモノナリ此ノ歸巢性ハ他ノ一般鳥類ニ於テモ概ネ備フルモノナレ共之ヲ傳書鳩ニ較ブレハ其差甚タ大ナリ抑モ傳書鳩ハ古來人類ノ使役セザル莫クニニ千年ノ歴史ヲ以テ幾多淘汰改善ヲ經テ遂ニ今日ニ至レルモノシテ其優秀ナルモノナリテ一日ニ能ク十餘軒ノ遠距離ヲ飛翔シテ歸巢シ得ルモノナリ此ノ歸巢性本源ニ就テハ從來幾多ノ學說アルモ未タ以テ權威アル絶對的證明解説ヲナシ得ルモノナシ今日我海軍ニ於ケル實驗上ヨリ推測スルニ左記解説ガ最モ合理的ニシテ信賴シ得ルモノト信ス

(一) 卓越セル肉眼視力ヲ有ス

(二) 一定期間特ニ優秀ナル視覺的記憶力並ニ聯想力ヲ有ス

高松空挺團飛翔中隊員ニ分秒ノ間ニ能ク周圍數十軒ニ在ル地物(夜間ニ在リテモ)ヲ看破シ之ヲ精密ニ腹裏ニ收メ置キ相當期間(最モ良ク記憶スルハ數ヶ月間位)ニテランモ自體ノ捕ミナレタル土地等ハ數年間記憶スルモノナリ能ク之ヲ記憶ス

(三) 頭腦優秀、特種的判斷力豐富

(四) 徹然に歸巢意志ヲ有ス

(五) 體カ特ニ優ニシテ能ク長時間空中飛翔ニ堪ヘ且ツ飛翔ニ最モ有効ナル羽翼ヲ

有ス右ノ内何レ一ヲ失フモ勿クニシテ歸巢能力ニ大ナル影響現ルコトハ實驗上
毫モ疑フ餘地ナク更ニ之ヲ稍具體的ニ解説スレバ

一 濃霧其他ニ視界極ニ狭小ナル時ハ如何ニ訓練セラレタル優秀鳩ト雖モ遠距離
ヨリ殆ト歸巢シ能ハサルカ(但シ夜間鳩ハ晝間鳩ニ比シ幾分程度ヲ減ス)又其數歸

巢成績不良ニ陥ルヲ見テ肉眼視カカ歸巢成績ニ至大ノ關係アルヲ察知シ得ヘシ
但シ幾分生理的ニ暗黒其モニ對スル忍耐力ニ關係スルカ如此ト是後章夜間鳩
訓練法ニ於テ説明スヘシ

二 鳩舍又ハ鳩舍附近ニ物の変化ヲ及ボシタル時鋭敏ニ之ヲ感知シ(假令ハ到着基

板ニ致シ増減ヲモ感知)又既知ト覺シキ高山都市ヲ目標トシテ飛翔スルコト多ク

殊ニ視界不良ナルカ或ハ前回飛翔地ヨリ一躍大距離ニ延伸シタル時等凡テ既知ノ

好目標ヲ得ラヌト認ムル場合ハ方向判定極メテ苦難ニ陥リ若シ之ニ及スル時

ハ易々トシテ判定スヲ見テ肉眼視カト關係シテ視覺的記憶力ノ發達(或ハ

期間ニ於ケル物の記憶力ハ恐ラクハ人間以上ナシ)セルヲ認メ得ベク從ツテ紛レ

易キ島嶼都市山岳燈光(夜間飛翔時)等ニ相當失敗ヲ演ズルコトアリ(曾々佐

吉保防備隊訓練鳩多數ヲ佐吉保ト長崎ト間違ニ飛翔セル例アリ)又之等ニ依

リテ聯想力、發達セリトモ、感知ニ難カズ而シテ一度訓練ヲ絶タル所ニ於テモ經過日數ヲ増加スニ從ヒ漸時帰巢成績ヲ低下スル所ヲ見レハ彼等ノ記憶力モ或ル期間以内ナルコトヲ斷ラ得ヘシ其他ノ項目ニ関シテハ一々解説、要ナカラン

以テ外第六感作用ニ就テ諸説、各目所全ク空莫ニシテ鳩ノ帰巢性ノ要項中ニ加フルニ固ナキヲ以テ後日考究解結ヲ俟ツ

要スニ傳書鳩ハ斯ノ如ク先天的ニ他ノ鳥類ニ超越セル歸巢性ヲ備フルモノナレトモ之ヲ自然ノ儘ニ放置スル時ハ決シテ自發的ニ涵養發達スルモノニアラス實ニ飼育管理有リ能ク此理ヲ辨ヘテ常ニ合理的訓練ヲ實施スニ依ッテ始メテ向上ニ發達スルモノナレトモ銘記シテ作業ニ從事スルヲ要ス然ラサレバ如何ニ價受ナル素質ハ有スル鳩ヲ貯フルトモ埋没セル財寶ニ等シク何等ノ效用ヲモナシ得タルモノナリ尚鳩ノ飼養性ニ就テハ飼育管理ニ極メテ重要ニシテ且複雑ナル事項ナルヲ以テ從事者ハ常ニ含味考究シテ生物取扱ニ才自ナキヲ期スヘシ

第三節 鳩ノ飛翔速力及ニ實用距離

一 晝間鳩舎

鳩ノ飛翔速力ハ素質距離、訓練、天候、管理法、健康狀態、及地勢等ノ差異ニ依リ一定シ難シト雖モ其總テラ普通ノ狀態ニアルモノトスルトキハ優秀鳩ハ平均一分一秒ナレドモ普通鳩ノ平均速力ハ大凡一分時六百乃至八百米ト見做ラ適當トス蓋シ鳩ノ飛翔速力ハ單ニ飛翔力ノ優劣ノミニ依ルモノニアラスシテ帰還力

向ニ如ク判別シテ成績ヲ左右スルモノナレハナリ故ニ中等鳩以下ノ
 モニシテ時ニ平均分速一科以上ナルコトアリ又優劣ハ鳩ニシテ平均分速一科以
 上ヲ算スルコトモ敢テ珍ラシカラス然レ共一ガニ於テ多数鳩ノ内ニ甚敷ク
 収容ニ選ルモノナキニテラス故ニ軍鳩ノ飛翔速力ハ中等鳩ニ於ケル平均成績ヲ
 以テ其標準トスルヲ可トス但シ一般ノ標準速力ハ一科一科トス可ク而テ實
 驗上能ク訓練セラレタル鳩ハ一科一科ノ成績ヲ擧グルハ次ニテ難事ニアラス
 實用距離モ亦種々状況ニ依リ差異アリテ一定シ難シト雖モ大體ニ於テ
 陸上國々鳩舎ハ海陸兩方高共ニ三百科トスルヲ通信完全ラ期スルニ於テ
 適當トス
 船上鳩舎ハ泊地ニ於テ鳩舎艦碇泊日数ニ比例シテ通信距離ヲ増大シ得
 ヘキモ種々状況ニ依リ實用距離ハ大凡一〇科以内ナリ又鳩舎艦航行中ニ
 於テ通信距離ハ一科以内ヲ以テ最も確實ナリトス
 移動鳩舎ハ整置日数多クニ依リテ異ルモ移動性ヲ完全ニ保持セシム
 範圍内ニ於ケル通信距離ハ概ネ五十科以内ニシテ夫レ以上距離ニ及ブ時
 鳩ハ漸時固着性ヲ帶フルニ至ルヘシ
 往復鳩舎ニ在リテハ五十科以内ハ日々完全ニ往復セシメ得ヘク百科以上ハ性
 能ヲ有スルニシ
 ニ夜間鳩舎

夜間鳩、晝間飛翔成績ハ一般ニ晝間鳩ニ優ルモノアリ然レ共晝夜共ニ使用セラルヲ以テ晝間鳩ニシテ負荷一層大ニテ晝間固定鳩舎如ク大距離ニ於テ使用ニ困難ヲ感スル憾トス

夜間通信ハ使用時刻、天候及明暗程度等依リ成績著レキ差異ヲ生ス即チ初夜末明等ニ於テ飛翔成績ハ概ネ晝間通信ニ追隨シ得

深夜飛翔ニ在リテハ尚研究中ナルモ末夕成績ニ低下スル免ス又月明ノ夜ハ暗夜ニ比シ成績遜ニ良好ナリ

實用距離ハ晝間又ハ晝夜連續飛翔ニ在リテハ概ネ二百浬以内トス

夜間ハシテ飛翔ニ在リテハ特別場合ヲ除キ百浬以内ニ於テ使用スルヲ適當トス

第五章 管理飼育

第一節 鳩舎(車)ノ種類及性能

鳩舎(車)ハ大體ニ於テ固定及移動ニ大別スルモ更ニ其ノ用途ニ隨ヒ陸上固定鳩舎、夜間鳩舎、船上鳩舎、移動鳩舎(車)及往復鳩舎等ニ區分セシ各其特長、特質ヲ有ス

一陸上固定鳩舎

普通一般ニ用スル、片道通信鳩舎ニテ陸上固定ニ專ラ晝間使用シ、遠距離ハ片道ニ應ジ得ル外多數鳩ノ飼育ニ便シテ且繁道最ニ適ス

一、夜間鳩舎

普通陸上固定式（移動性モモナリ）持運装置（明暗探光、燈光、彩色等）ヲ施シ、夜間鳩舎（晝間鳩）ヲ飼育シ晝夜間通信應得モナリトモ、夜間通信モモナリ

三、艦上鳩舎

艦艇上面空取板ニ便シタル爲メ、多クハ分解式ニシテ艦艇行動ニ從ヒ鳩モ亦自ラ移動性ヲ帶ルルモノナリ所謂半固定式鳩舎ニシテ艦艇間又ハ航空機陸上等昇降艇ニ通信スルニ用フルモノナリ

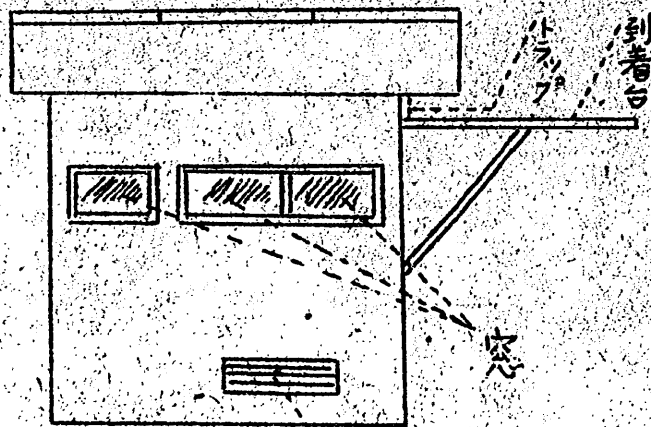
四、移動鳩舎（車）

移動便ナラシメ爲メ、多クハ車輪附テ中ハ分解式（車載式）又モ携帯用鳩舎、如キ極テ簡便ナルモノナリ陸上運動戰場合又ハ航空基地前進根據地等ニ移動シテ急速馴致シテ直ニ用途ニ應ジ得ヘキ鳩ヲ飼育スルモノナリ

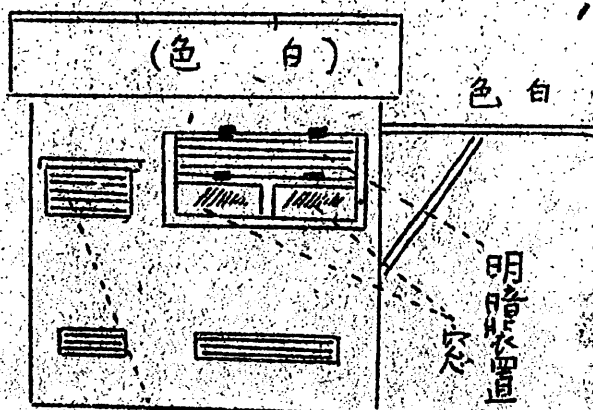
五、往復鳩舎

普通陸上固定式（移動性モモナリ）持運鳩舎及ビ食事鳩舎ヲ各相異ルル地点ニ設テ、備シ專ラ性飲食欲ヲ利用シ特ラ定テ鳩ヲ天々兩鳩舎ニ吸引シ日々兩地間ヲ往復セシメ之ニ依リ定期通信ヲ行フ特種鳩舎ナリ本鳩舎利点ハ簡單ニ往復通信ヲナス事ニシテ一定時刻ニ多敷通信文ヲ輸送シ得ルモノナリ

以上前記所ハ軍ニ鳩舎一般常識ニ過ぎス其構造様式則チハ金ク十種萬態ナリ然レモ各鳩舎ヲ通シ最モ緊要ナル探光、換氣、展望等ノ良好ナル

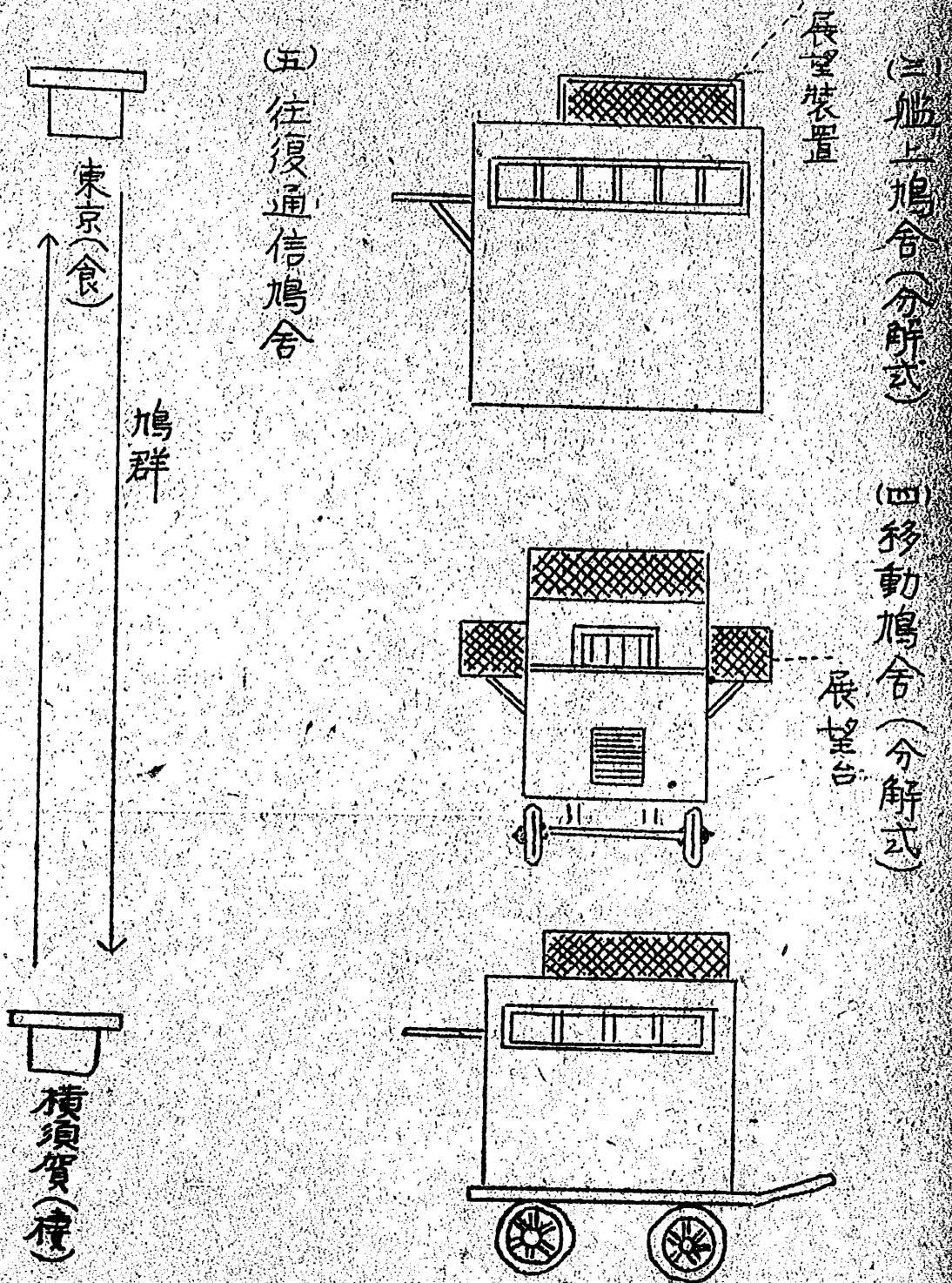


通風錠窓



窓

事ナリ而シテ外部ニ到着臺ヲ取付ケ内部ニ棚板(散步臺)巢房ヲ備ヘ且ツ鳩ノ
 入口ニトラップヲ設ケルコトハ絶対ニ要ナル條件ナリトス
 鳩舎外形略図
 (一)陸上固定鳩舎(ニ階建ノモノアリ)
 (二)夜間鳩舎(全上)



第二節

飼糧

一飼糧の種類及選擇

鳩ハ豆類ヲ好ミ豌豆大豆小豆大豆豌豆落花生等皆之ヲ食ス然レ共生理的要ボル充ス爲メ含窒素物含炭素物脂肪及礦物性塩類等ヲ含有シ飼糧ヲ適度ニ與ヘサルハ然レニ之等ノ諸要素ヲ單ニ穀物中ヨリ得ル事ハ不可能ナルカ故ニ自ラ數種ノ混合飼糧ヲ必要トスルモノナリ

二我海軍ノ常用飼糧

現在我海軍ニ於テ常用ノ鳩飼糧ハ左如シ

白豌豆 含窒素物中代表的モノニテ栄養ノ良ニ於テ最良モノナリ

燕麥 燕麥 麥類(大麥小麥裸麥)ト共ニ含炭素物代表的穀物ナレ共麥

類ハ胃腸ヲ害シ易キヲ以テ燕麥燕麥ニ者ヲ採用ス

燕麥 熱量多キ飼糧ナリ鳩ハ體温高(摂氏四十二度)キヲ以テ之ヲ保タシム

ルニ於テ常ニ良キ飼糧ナリ

土塩 古石膏末 黄土 牡蠣末 卵殼食塩(約五%)等ノ混合物(外ニ炭末及

ハ砂利等ヲ混スルモノナリ)ヲ水ニテ捏不團子型ニ乾燥シタルモノヲ土塩絶え供

給シ置キ鳩ノ啄取ニ便スモノトス

尚青菜ハ常ニ供給スヘキモノニテ血液ヲ清新ナラシメ活カラ與フルニ特效アルモノナ

リ右外粟菜種荳胡麻麥等モ適良ニ按配シテ用フヘ良キ飼糧ナリ

三飼糧配合

供給飼糧の種類に依り差異アルモ大凡左記ヲ標準トシ時氣氣候其他情況ニヨリ適宜按配ス

白豌豆 四〇—六〇%

麻黄 三〇—五〇%

玉蜀黍 一〇—二〇%

之米 嗜好食トシテ少量ヲ時々呼込調放、際又遠距離飛翔後賞與

飼糧等ノ與フルモノナリ

四飼糧ノ白量

鳩ノ年齡氣候時機其他情況ヨリ差異アルモ通常一羽ニ對シ前記混合飼糧ヲ

大凡三五瓦乃至四五瓦(約三—五枚枲ヲ約三ワ)ヲ一日ニ一回(夏季)

ニ供給ス但シ情況ヨリ全數ヲ通シテ百天食制ニ食制トナスコトヲ得

青菜ニ週ニ三四回之ヲ刻ミテ給與ス白菜、サヤ菜、フナ草、玉菜、蔦菜、小松

菜等皆良好ナル綠餌ナリ葉ヨリハ莖ヲ好ムモノナリ

飲水ハ極テ緊要ニシテ常ニ清潔ナルモノト更新スルヲ要ス断水ハ絶食ヨリモ一層

危険ナリ鳩ハ水ニミテモ能ク數日間生存シ得ルモノナリ

五飼糧ノ精選

飼糧ハ採取ヨリ六月以上ヲ經過シ能ク乾燥シタルモノヲ要ス良ク乾燥スルモ

甚クシテ古キモノハ良クシテ常ニ塵芥、夾雜物ヲ除キ精選シ置キ且ツ使用前元
分日光ニ曝スル要ス發黴変質ノ穀物ヲ其ノ終與ヘンカ勿クシテ病鳩發生
シ日頃、好カモ水泡ニ歸スル愚ヲ招クニ至ラン

第三節 器材 作業服 及 諸用紙

一 器材

(1) 備品部

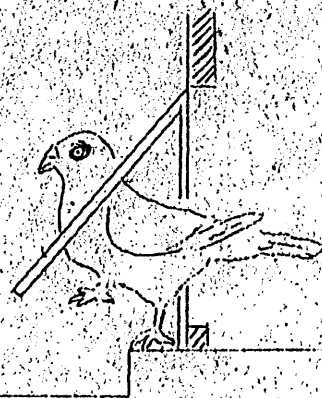
巢箱

鳩室内側ニ連接シテ裝備シ單巢房モノト複巢房(普通
ニ個連結シテ棚板式ニ各巢房ノ區劃ヲセラルモノ)ノモノアリテ
之ニ番鳩ヲ收容ス巢房ノ容積ハ鳩合ノ性質ニヨリ差異アルモ
間口ハ天ノ奥行一尺ニサ高サハ三尺位ヲ適度トシ其構造ハ
鳩棲息ニ便成育ニ適スルヲ要ス

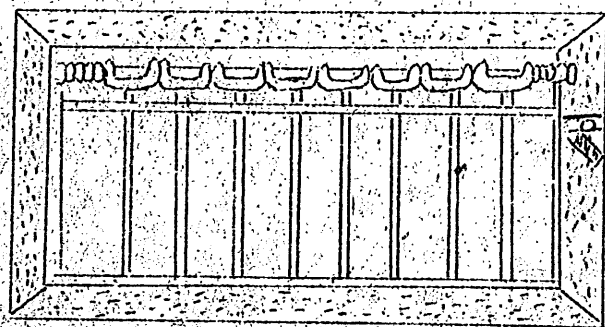
トランプ

枠内ニ金屬棒ヲ懸垂シテ製作ス「ワナ」様キニシテ鳩ノ
出入口ニ裝備シ歸來スル鳩ハ金ニ便ナラシム

「トラップ」(側面)



到着台



全上(内面)

電鈴

「トラップ」併用シ歸還鳩が「トラップ」ヲ滑ルトキ(又「トラップ」直下、到着台
上ニシタルトキ)電路ヲ完成シ振鈴ヨリ鳩ノ入舍ヲ告知スルモノナリ

呼笛

高き音ヲ發スル笛ニテ鳩ノ呼込調教ヲ行フニ使用ス

鳩籠

本区ニ別シ形態ハ種々アリテ其用途ニ應ジテ別スレバ大凡左ノ如シ

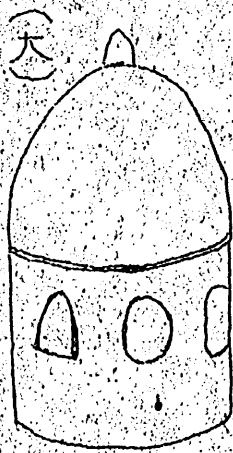
輸送用大

專ラ鳩輸送ニ使用スルモノニテ普通通ニ羽ヲ至十八羽ヲ收容シ得

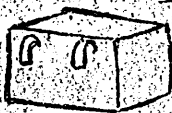
携帶用小

鳩ヲ携行スルトキ用フルモノニテ輕便ヲ主眼トシテ折疊式ノモノアリ

飲水器



(大)



(小)

飛行機用ハ飛行機ニ搭載使用スルモノシテ重量輕ク携帯用ノモノ利用シ得
 特ニ木製又ハ金屬製ノモノアリ
 閉置用ハ特別大形モノシテ鳩ノ数以上全地ニ閉置シテ通信ヲ行フ場
 合ニ極メテ有効ナルモノナリ
 行軍又登山用 負紐ヲ以テ背又ハ腰部ニ結着シ振動ニ耐ヘ得ル特
 種ノ容器ナリ
 有外乗馬隊用トシテハ特ニ護謨紐ニテ平均ニ鳩体ヲ釣リ以テ激烈ナル振
 動ニ耐ヘ得ル如ク製作セルモノナリ
 飲水器 大小ニ区分シ大ハ鳩室用トシ小ハ輸送(携帯)及特別場合鳩室
 内ニ備付等使用スルモノナリ鳩室内ニ使用スルモノハ糞又其他塵芥混入
 ラ防多ク不適當ナル型ニテラ用ニ輸送(携帯)用モノハ特輕便ナル型ニテラ使用
 鳩室内ニ使用スルモノ
 輸送(携帯)又ハ特別場合巢房
 ニ於テ使用スルモノ

給餌器

平底の器に給餌器の除く用と飼糧を鳩糞を等しく
 附有ラ防カ且ソ濕氣ヲ避ク

鳩水浴槽 金属製天寶銭型、皿ニテ鳩水浴使用スモナリ大小ニ様アリ

大普通鳩舎示ハ移動鳩舎、如キ特種小型鳩室ニ於テ使用ス

鳩足輪固着器 金属製鉄型、テニテ平型足輪ヲ嵌入スニ用ユ

足輪託號器 数字型、文字型、錨型等ト併用シ足輪ヲ所要ノ託號ヲ刻印

允ニ用ユ

捕鳩網



型ノ網ニテ鳩室外ニテ鳩ヲ捕ヘルニ便利ナリ、
 金属製小型「タング」ニテ水源遠キ鳩舎ニ於テ時鳩舎ニ清水ヲ貯フ

水罐

篩箕

振旗

何レモ飼糧ヲ精選スルニ用フ
 舍外飛翔中鳩舎附近ニ掲ギ且ソ飛翔中鳩舎屋上ニ下リ來レ

消毒器

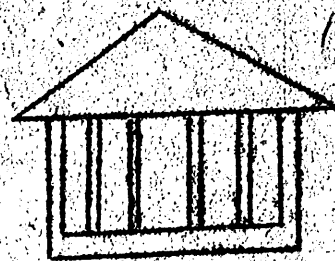
糞掻

土塩箱

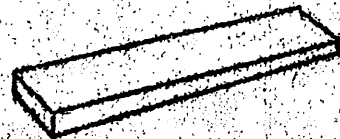
鳩室内外拉器材消毒ニ使用ス
 共ニ鳩掃除用具ナリ
 土塩ヲ入レ鳩室内ニ置クモノニテ糞ヲ防グタメ屋根型
 ヲ附シアリ

消耗品之部

土塩箱



給餌器



鳩巢 石膏 素焼木材等製作セル深皿様ニシテ巢房内へ備へ置ツモイヌ
鳩足輪 所屬番號等ヲ刻印セルモト單ニ職別用ノ着色ロゼットアリ其ノ用途
ニ從ヒ固有足輪押挾足輪・色別足輪・ヤロイト製色別足輪等ノ區別アリ
信書筒 重量約二瓦アルミ・ム・製長圓筒形蓋及帶付ノ管ニシテ之ニ信書

(三通り收納シ得)ヲ收メ鳩足ニ装着スルモノナリ

信書書表 重量約二瓦覆膜引柄布ニテ製作シテ多数通信文又寫

眞アルミ等ヲ輸送スル時ニモ使用シ鳩ノ胸部ニ装着スルモノナリ

小印 鳩・翼羽ニ記號ヲ捺印スルニ用フ

二作業服(消耗品)

鳩室作業ニ従事スルモノニ常ニ定服被ヲナシテ其時ハ鳩ヲシテ自取

取有る部類に於ては、本紙の如き得る三層便利なり。作業服ハ三二
半、手拭、目的ニ使用スルモノニシテ且衛生上見地ヨリ白色布地ヲ用ユ
作業服ハ地質ヲ絞水綿トシ之ニ黒色横線ニ條ヲ劃シタル帽子ヲ附ス
三 諸用紙（消耗品）

軍鳩通信用紙 本紙及取外シ自在ノ厚表紙ヨリ成リ本紙ハ約五枚ヲ以テ
一部トシ品質ハ優良ナル薄キ日本紙ニ決メ紙引ニテ濕氣ニ耐ヘシタルモノニシテ
甲式乙式ニ條ナリ並通信文（及略圖・表等）ヲ記載スル用ニ充テリ
鳩合諸用紙 鳩合日誌、軍鳩経歴簿、鳩名簿、仔鳩名簿、産卵孵化
簿、交配記録、配偶鳩様同仔鳩一覽表、軍鳩現狀日報、軍鳩月計報告
（年表第三表）等ヲ別リ
放鳩成績用紙、放鳩成績表、軍鳩通信記録、年度各線鳩訓練成
績一覽表等ナリ

第六章 訓練

第一節 馴致

新ク鳩ヲ收容シタル場合、其鳩ヲシテ鳩舎近附近ノ地物ニ慣レシムルヲニ施ス
トヨク訓練ヲ行ニ馴致トシテ 馴致ハ鳩ヲ移殖シタル後直ニ行フモノニシテ
外界ヲ觀察シ得ル鳩舎ニ閉置シ空腹ヲ利用スルコトニ依リ目的ヲ達シ得

第二節 出合

此鳩舎、構造施設、適否鳩、年齢、其素質、優劣、新舊鳩舎間距離、其構造、差異飼育者、技倆等ニヨリ、自閉置日、放ラ異ニシ之ヲ完成ニ難易アリ、一般幼鳩ハ馴致シ易ク成鳩ハ難シ、最少馴致、日放ハ（生後一二月、雅鳩）二箇月ヲ充分ナルコトアリ、又遅キモハ（二歳以上、優良者鳩）数月ヲ要スルコトアリ、馴致秘訣ハ空腹時ヲ利用シテ鳩ト人ト親和ヲ計ルニアリ、換言スハ、馴致成否ハ空腹利用ヲ拙トモ過言ナラス、單ニ鳩ノ靜謐ヲ見テ馴致ナレト思惟スルハ、卑計ナリ、真、馴致ハ鳩舎並ニ其附近ノ地物ニ對シ、全ク不安ノ念ヲ去リ、且鳩ト人ト親和ヲ得テ始メテ完全ナルモナリ、馴致ハ彼ノ建築ニ於ケル土、其等シク最モ大切ナルモノニテ、其末ク成ラザルニ鳩ヲ舎外ニ出スコトアラシク、幼鳩ハ之ヲ呼ビ、收容スルニ難ク成鳩ハ忽ニシテ高空ニ舞上リ暫ク附近ヲ巡回飛翔シタル後、何レカ其方ヲ没シ飼育者ノミナラ、眺メテ悄然タラン

馴致完成、認タル時ハ出合ヲ行フヘシ、單ニ鳩ヲ室外ニ出ス、意味ニシテ飛翔ヲ強要ス、其目的ハ馴致、試験ヲ主トシ兼ネテ鳩舎附近地物ヲ稍々精密ニ認識セシメ、且出入舎呼ビ等ノ豫備、調教ヲナスナリ、故ニ令外飛翔トハ明瞭ニ區別シ行フヲ要ス、出合ニ就テ特ニ注意スベキ出合ノ時機及方法、三三

亦即第一回出舍ニリテハ金鳩同時ニ出サシテ避ケ先ツ放物鳩ヲ出シテ情ニ四
況ヲ窺ヒ一旦之ヲ呼ビ更ニ一回稍々鳩ヲ放シテ同手段ヲ繰返シタル後次第
ニ金鳩ニ及ボスモニシテ夫シテ最初ヨリ多敷ク鳩ヲ出スヘキモニアラス又第一回
出舍ノ時機ハ概ネ刻近キ空腹時ヲ利用シテ施行スルヲ可トス然レトモ技
倆甚タ未熟ナル鳩舎員ニ依リテ行ハル第一回出舍ハ寧ロ刻ヲ避ケ午前中
ニ行フヲ安全トス是レ鳩ハ夕刻ニ出ルニ從ヒ極度ニ宿所ヲ求ムル性質アルヲ以
テ順當ニ入舍ン得レハ格別ニ其然ラサル場合ハ各何レカニ飛去リテ之ヲ回收
ニ甚タ困難ヲ招來スルコトアルヘキヲ以テナリ

第二回出舍ノ際屋上或ハ到着台上ニ在ル鳩ヲシテ何トナク落着カス稍々モスレハ
飛ビエタントスル情勢ヲ示シ又上空飛翔中ノ鳩ニテ非常ニ高空ニ舞ヒ上リ
又ハ甚敷ク不規則ニ旋回圈ヲ畫クモノハ何レモ馴致未完成ヲ表ハスモノニシテ
斯カル場合更ニ引續キ馴致ヲ行フヲ要ス

第三節 舍外飛翔

出舍及呼ビ略完成シタル時ハ飛翔力ノ程度ニ應ジ飛翔ヲ強要ス舍外飛翔
ハ放鳩訓練準備操作ニシテ之ヨリ地物ヲ精密ニ觀測シメ飛翔力ヲ涵養
シ入舍ニ習熟シ体力ノ鍛練ヲナス等極メテ緊要ナル日施行事タリ故ニ事
情上得ザル場合外一日ナリトモ必ず行ハルベキナリ但シ此舍外飛翔ノ事ハ

決シテ歸巢性(方向感)ヲ勵養成スルモノナラサルヲ銘記ス。本訓練ハ年々手
毎給食前行フモノトモ不時ニ行フ事モ又極メテ必要ナリ而テ其體カ其他ノ情况ニ
應シ適宣時間ヲ按配シテ總キハ十分間位ヨリ長キハ二時間餘ニ亙リテ連續飛
翔セシメ空腹ヲ利用シ呼笛其他ノ音響ヲ用ヒテ鳩舎ニ呼込ニ初習慣ヲ作り
全鳩ハ入舎ヲ得テ給餌ヲ行フモノトス飛翔中ノ鳩ヲ附近ノ建物ノ樹木等ニ棲
マリ又地上下ル等ノコトハ絶對ニ禁物ナリコトヲ惡習慣ヲ其ニ依テ放置スル時ハ
放鳩際途中着陸ノ惡弊ヲ生スルヲ以テナリ舎外飛翔中ノ鳩ハ固キ集團ヲ作
リテ呼込合カシ迄能ク鳩舎上座ヲ旋回飛翔ヲナシ號音一聲身直ニ入舎スル
ヲ如ク調教シ置テ要ス

鳩ハ頗ル習慣性ニ富ミモノナルヲ以テ凡テ訓練ノ始ニ於テ決シテ惡習慣ヲ付
サルコトニ深キ注意ヲ要ス又呼込給餌際ハ必ズ呼笛ヲ用ヒテ調教スルコトヲ怠
ルヘカラス天候ノ関シテハ大雨雪濃霧暴風等ノ時ハ格別テレトモ其他ノ場
合ハ多クテ本訓練ヲ實施スルヲ要ス耶カ不良ノ天候ヲ顧慮シテ直ニ舎外飛
翔ヲ取止ルカ如キハ實用ニ供シ得ル軍鳩ヲ養成スル所以ニアラス但シ鳩抵抗
力ヲ考ヘ氣象ノ変化ニ應シ得ル準備アルヲ要ス

第四節 放鳩訓練

鳩ハ他科學的通信機關ト異リ座ニテ使用シ得ルモノナラス常ニ之ヲ使用シ得
ル如ク訓練ヲ施シ且ツ充分活動ニ耐ヘ得ル如ク體力ヲ鍛練シ置テ要ス

放鳩訓練ノ目的ハ、放鳩訓練ノ相俟ニ鳩ノ歸巢能力ヲ養成セシメ、
 之ヲ最重要事項ニシテ、放鳩訓練ノ不良鳩ノ淘汰ヲ行ヘ、自ラ子孫ニ傳ヘ、良
 性ヲ傳フルモノナリ。放鳩訓練ハ、馴致完成ナル鳩ヲ予定地奥ニ輸送シテ解放ス
 ル事ニヨリ目的ヲ達シ得ヘキ。訓練家畫良否地形ノ利用管理法ノ適否ハ、
 氣象等ハ少カラス成績ニ影響有ラズ、尚且、放鳩成績表ノ計算
 作成可成リ煩雜ニテ、勞力ヲ要スルモ、極メテ重要ナルヲ以テ、放鳩者タルモノハ
 訓練後直ニ之ヲ整理調製シ置クヲ要ス。

放鳩訓練ヲ分テ基礎訓練、延伸訓練、保能訓練トス。

一 基礎訓練

鳩舎ラ中心ニシテ半径三乃至四杆附近國內、放鳩訓練ニテ東西南北各方
 向ヨリ各個放鳩ヲ予定距離ニ至テ完了スルメトス。

二 延伸訓練

基礎訓練ヲ完了セル鳩ニ對シテ更ニ必要、方向對シ躍進シテ放鳩訓練ヲ
 行フヲ云フ。

三 保能訓練

歸巢能力ヲ確實保持セシメ、爲既往訓練範圍内ニ於テ更ニ復習訓練ヲ行フヲ
 云フ。

四 放鳩法

放鳩法

各個放鳩(二羽放鳩)

集團放鳩

小集團(二羽乃至十羽放鳩)

中集團(十羽乃至二十羽放鳩)

大集團(二十羽以上放鳩)

五放鳩躍進度

概ネ左標準ニ據リ漸時躍進ス

1km 2 3 5 10 20 30 50 75 100

500 220 300 400 500 600

六各個放鳩ト集團放鳩ノ利点ノ欽点

放鳩法

利点

欽点

各個放鳩

一方向判定其他ニ對シ他鳩ニ頼ルノ
 信念ヲ抱カシメス從ツテ實用通
 信場合ニ有利確實ナリ
 二害鳥ノ襲撃ニ依ル被害率小

一多数放鳩場合夥シ時間ヲ
 要ス
 二距離躍進度小從ツテ同距離
 ニ對シ訓練回数ヲ増ス
 三失踪率大

集團放鳩

一放鳩時間節約
 二距離躍進度大從ツテ同距離ニ對シ
 訓練回数ヲ節約スルヲ得

一他鳩ニ頼ルノ信念ヲ抱カシメ從
 テ二羽放鳩場合確實性低下ス
 二害鳥ノ襲撃ニ依ル被害率大

三 失蹤率小

四 各個放鳩之比一般成績良好

右如ク各個放鳩ト集團放鳩ト利害全ク相反シ其何レヲ選定スベキカハ俄ニ
 限定シ難キ要スルニ距離目的的地勢經費時間鳩數鳩舎性能及氣
 象等ノ情况ニ依リ決定スベキニシテ初期訓練ニ努メテ各個放鳩ニヨリ訓
 練ス可トス

第五節 陸上固定鳩舎訓練

陸上固定鳩舎ハ各種鳩舎(車)中基礎鳩舎ニシテ之ク訓練法最モ簡單容
 易ナリ其方法鳩舎ニ馴致サル鳩ヲ前項記述基礎訓練ヨリ進シテ延伸訓
 練ヲ行フモニシテ遠距離ノ訓練ヲ行フモアリテハ基礎訓練終了後或ル決定方
 向ニ對シ躍進スルヲ例トス又訓練終了後ト雖モ必要ニ應シ保能訓練ヲナ
 シ十月中旬頃ヨリ蕃殖準備ニ移ルモトス

第六節 夜間鳩舎訓練

本訓練ハ高等鳩術ニ屬シ飼育管理者ノ知識體驗並ニ連綿不斷ノ努メカ必要
 トスルコト各種鳩舎訓練中隨下ス蓋シ現在鳩(未夜間訓練)ハ生來活動性
 ヲ專ラ晝間ニ保持シ來ルモニシテ略夜飛翔ニ對スル充分視カヲ有ス且ツ
 活動意志モナク而モ自己保安ヨリ夜間棲息所ヲ離ルコトニ對シ極度ニ
 怖氣ヲ生ル等之等先天的性質ニ對シ人爲的ニ變化ヲ促シ遂ニ夜間歸巢

三八

ノ習慣ヲ作爲スルヲ以テテリ故ニ之ヲ養成訓練ニ當リテハ能ク其要所ヲ捕促
 含味シ適切ナル計畫ト晝夜不斷ノ努力ニ依リテ始メ目的ヲ達成シ得ルモノ
 ニンテ一度其方法ヲ誤ラカバ後ニ鳩ニ勞苦ヲ強ヒ過度ノ失踪ヲ招キ遂ニ目的
 ヲ達成シ得サルコトアリ 深ク注意ヲ要ス尚本訓練ニ當リ最モ究メ要スル
 事項次ノ如シ

一夜間活動意志誘起

鳩(夜間訓練ヲ施サルモノ)ニ一夜間活動ノ意志ヲ欲クコトハ次ノ實驗ニ依リ
 テモ想像スルコトヲ得ヘシ

- (一) 日没後一時間以上經過シタル頃鳩室ニ入リ巢房内ニ休養中ノ鳩ヲ引
 生ントスルモ中々肯ゼス 其反抗ノ意志ヲ表示ハ晝間ニ比シ一層強烈ナリ
- (二) 右場合無理ニテ舍外ニ持出シ到着台ニ放ツニ多ク場合飛之タズ
 (晝間ナレバ殆ド飛ビツ)ニテ強制シテ飛タシメントスレバ概ネ羽音烈シ
 クバタ／＼ト飛ビデテ直ニ低所ニ轉落其位置ニ躊躇ス
- (三) 前項ノ鳩ヲ約百メートル地奥ニ持出シ放鳩(持ニ上カニ放鳩)スルニ
 大部分ハ烈シク羽音ヲシテ、飛之タ鳩舍及其附近ノ屋根ニ棲ルカ或
 ハ棲リ得ズニテ轉落シ其傍附近ニ躊躇ス而シテ他ノ部ハ飛ビコト
 ナク附近ニ降落其傍躊躇ス

(四) 前項ト全ク状況ニ於テ一ニ科ノ距離ヨリ放鳩(方法前項ニ準ズ)スルニ一部三九

ハ鳩舎方何處ニ飛テ鳩舎屋上及其附近ニ棲リ大部ハ飛タズシ
 テ附近ニ降落シ其後躊躇ス

(五) 同狀況ニ於テ約十秒ノ地臭ヨリ放鳩タルニ羽モ歸巢ス

(六) 前諸項ニ於テ一旦降落セル鳩ハ自發的ニ再び飛出ツルコト殆ド稀ナリ

(註)

(一) 本實驗ハ二三歳鳩ニ就テ實施タルモノナリ

(二) 歸巢セサル鳩ハ特ニ事故無キ限リ翌早朝歸巢スルヲ例トス

(三) 鳩舎位置天候明暗度等ノ情況ヨリ結果ニ多少ノ差異ヲ生ス

(四) 多少ナリトモ薄暮訓練ヲ課シタル鳩ニアリテハ全ク其ノ趣キヲ異ニス

前述ノ狀況ヨリ之ヲ見テ昼間鳩ハ夜間ニアリテハ数秒ノ近距離ニ於テモ

完全ニ歸巢スルコト困難(稀ニ歸巢スルコトアルモ容易ニ入舎セス)ナリトノ

結論ニ到達スルモノニシテ其原因ハ主トシテ夜間活動意志ノ欲知ニアル

モト推斷ス故ニ夜間鳩養成ニ當リテハ先ツ夜間活動意志ヲ誘起

ニ着目スルヲ要シ之ガ第一手段トシテ暗夜ニ對スル怖氣ヲ除去セサルベカラ

ス然レトモ急速ニ之ヲ強ヒントセバ反テ恐怖ハ増大セシメ反對結果

ヲ招來スル惧レルヲ以テ先ツ日出及日没時附近ヨリ第一段夜間ノ展望

(鳩ヲ展望台ニ出シ附近ヲ觀察セシム)第二段舎外飛翔等ヲ課シ漸

ク之ニ慣ルニ從ヒ第三段ニ放鳩訓練ヲ行フモノニテダス漸進的ナルヲ

要ス即チ夜間舍外飛翔ヲ行フ場合ハ其前日迄ニ少クモ一時間以上前進セル夜間展望ヲ訓練ヲ終了シタルヲ要シ放鳩訓練ニ於テハ之ト同意味ニヨリ前日中迄ニ約一時間前進セル舍外飛翔訓練ヲ完了シタルヲ要ス又深夜訓練ハ先以テ月明期ニ於テ施行シ漸時闇夜ニ及ボス如ク實施スルヲ要ス斯ノ如クスル時ハ次第ニ夜間對スル恐怖心ヲ去リ漸時活動意志ヲ増大シ遂ニ習慣性ヲ作為スルニ至ルモノナリ

二夜間ニ於ケル方向判定勵發

鳩ノ方向判定ノ根據ニ就テハ今尚種々論說アルモ卓越ナル肉眼視力ヲ發達セル視覺的記憶力及優秀ナル判断力等ガ其ノ主因ナルベキコトハ次ノ實驗ヨリ想像スルヲ得ベシ

(一) 空晴レ視界良好ナルトキハ著シク方向判定良好ナリ

(二) 視覺ニミル物体認識容易ナルニ因ル

(一) 視界不良ナルカ又ハ前回飛翔地ヨリ一躍大距離ノ延伸放鳩ヲ實施シタル場合等凡テ既知ノ好目標ヲ得難シト認メラル場合ハ方向判定極メテ苦難ニ陷ル

(二) 物体認識ノ難易ガ方向判定ニ及ボス影響

(三) 濃霧其他ニテ視界極メテ狭小ナルトキハ如何ニヨリ訓練マレタル優秀放鳩雖モ遠距離ヨリ歸巢ハ殆ント困難ナリコト場合近距離四一